

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成	19年	7月	28日
事業所名	グループホーム	はるすのお家いわから		
ユニット名	2単位「ほほえみ」			
事業所番号	2374700249			
記入者名	職名	管理者	氏名	栗林美菜子
連絡先電話番号	0587-37-4881			

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念は「その人がその人としてその人らしく生きるために支え続けることを使命とします」である。会社としての介護理念であり事業所独自のものは掲げていない。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝、朝礼にて前スタッフが声に出して唱和している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護理念を玄関に掲示し浸透を図っている ・利用者との買い物や外食散歩等地域へ頻繁に出かけている 	<p>外出は今後も積極的に取り組んでいきたい</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関は夜間以外常に開放しており、オープンな状態になっている ・隣近所との挨拶を大切にしている 	<p>道からグループホームと分かりづらいため、家族や近所の意見をもとに検討していきたい</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りを開催し近隣の方々をお誘いし参加して頂いている ・老人会行事にも民生委員さんい声掛けていただき参加するようになってきた 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>近所の高齢者が相談に来ることがあり、管理者・看護師が話を聞きアドバイスすることはあるが、役立つまでには至っていない</p>		<p>どのようなことをきっかけにお役に立てれるか、運営推進会議を通して意見をいただき、無理のない範囲で活動したい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>新しい職員も多い中、自己評価に積極的に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>報告や話し合いを行い、現場に活かしている</p>		<p>もっと広くボランティアを募集していることを社協の紙面に載せていただいた</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度、生活保護などの問題点に助言いただいている ・ボランティア活動を実施して頂いている 		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>過去には社協を通じて権利擁護の利用を検討したり実施した利用者もいた</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の拘束や虐待が無いよう注意を払っている ・日頃から、ひやりはっとなど取入れ、配慮している 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、利用者の家族の前で声を出してゆっくり間合いを持って説明している</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・運営会議に利用者も参加して頂いている</p> <p>・管理職のいる事務所にも気軽に出入りして頂いている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりや健康状態の変化については随時電話連絡したり、毎月利用料の請求書・出納帳と共に、お手紙を入れて報告している。又、面会時にも出来る限り状況報告するように努めている</p>	<p>ホームへ頻繁にみえる家族や変化の著しい利用者の家族へのお便りを今後工夫したい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱は玄関に設置してあるが、入っていたことはない。管理者・計画作成担当者は面会時に家族に会った時は出来るだけ話す機会を設け、その場で意見や疑問・不満を聞き、その都度対応している。内容によってはミーティングで取り上げスタッフにも改善を促している</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・ミーティングやカンファレンス等頻繁に行い意見の言える環境を整えている</p> <p>・心配、不安、不満がある場合、直接ホーム長と話す機会を設けている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟に対応できるよう、いつでも連絡が取れる状況を作っている</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職のある場合は、3ヶ月以上前より連絡し次責任者への移動を講じるよう努めている		1F・2Fのスタッフを期間的に交代させ利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会の案内を掲示し、参加しやすいよう受講料・交通費の援助もされている		スタッフのレベルの格差が生じない配慮も必要である
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内の他事業所へ利用者で訪問することはあるが、職員の交流までには至っていない		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス個人面談においても、話しやすい環境を整えている		できる限り懇親会も行っている
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価・上長評価もオープンで各職員が良く把握されていると思う		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談先の職員や家族はもちろん、ご本人に会って細かくお話を伺うようにしている</p>	<p>出来るだけホームへ1度でも足を運んで頂くように促している</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談の機会には、ご家族にも具体的に問題点を伺うようにしている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その時必要としている支援を見極め対応に努めている</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>面談の後でもいつでもホームにお越しいただき、新しい環境に馴染んでいただけるよう声掛けしている</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>経験豊かな利用者から学ばせて頂くことは多く、支えあう関係を築けるよう努めている</p>	<p>利用者の経験豊かな人生観を手取るように話される時の輝きを大切にしていきたい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ある利用者は、畑で作物を作りたい。その思いを汲んでご家族が畑のお手伝いをされている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係が疎遠にならぬよう、病院受診は基本的に家族の役目としてお願いし、介護するのは職員ではなく、家族が本人に関われない部分を支援していくんだという気持ちで関わっている		ある利用者のキーパーソンが交代した際は直接お会いしたり、電話したり、連絡がスムーズにいくよう配慮した
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の馴染みの人や場所が途切れないよう支援に努めている ・友人、知人の面会も歓迎している 		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、より良い環境でいられるよう努めている		少人数での外出援助を促していく
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ある利用者のケアマネの場合、現在も利用者に関し連絡を頂く場面がある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人一人の思いや考え等は日々変化していると思われる。その時々表情を汲み取り声掛け等に配慮している</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入居時にご本人やご家族に過去の情報収集をしている</p> <p>・利用者さんのお話を聞いて把握に努めている</p>	<p>身体状況の変化があった場合、特に意欲低下時等はどのように暮らして頂くか再確認が必要</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日中の姿を見ながら判断するように心掛けている</p>	<p>言えない、見えない、影になる利用者にもっと目を向ける必要がある</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成前には、前回のプラン見直しの意見をスタッフに求め、それを基本に次のプランに反映している</p>	<p>家族様の意向がなかなか反映までに結びつきにくいため努力していきたい</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・身体変化や入院等、内容に変更がある場合新たに作成するようにしている</p> <p>・3ヶ月に1度スタッフ全員でケアプランの見直しをしている</p>	<p>内容が固くスタッフに分かりづらかったため簡素化に努めている</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	看護面・介護面・利用者本人談など分けて書くようにしている		書こうとすると気が焦り、字が乱雑になりがちなので、他者が読み取れるような活字に配慮している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の要望は出来る限り沿うことのできる様話し合い支援するよう努めている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴ボランティアが訪問している ・近隣の子供達が気軽に遊びに来る 		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	必要に応じて対応している。GHでの生活が困難になった場合、家族も良く知るケアマネと連携をとって、老健等の他サービスへの意向も検討するよう支援している		GH入居前の家族も知るケアマネとの関係作りに努めていきたい
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	必要性のある方については、家族・福祉課・生きがい課等の協力を得て対応している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族様に医療では定期・臨時・急変時など確認するようにしている		日祝日・夜間・個人か総合か、家族の連携等で問題が生じる場合もあるため、臨機応変に対応できるように家族や医療と連携を図って行きたい
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の病院の認知症外来に受診変更して頂いた方もいる		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在働いている看護師は非常勤の為、全体の把握が難しい部分はあるが、ささいな体調・皮膚の状態変化など気軽に相談し対応方法を聞くことが出来る環境にある		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、職員が病院へ顔を出し利用者に見えたり退院間近には病院側の説明を伺いに行っている		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末をどういう形で迎えたいか、本人・家族と共に話し合いを重ねている。早い段階での特養・老健など申し込みも進めている		書面上は協力医療機関体制があっても実際問題はまだまだ難しいため、医師・家族と話し合いを設け対応して行きたい
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居後の日々の変化は、口頭や手紙で報告している。ホームの限界を話しながら、家族が困らないよう早めに医療・福祉と相談し対応策を考えるようにしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーや他の文書、口頭で情報を伝えている。身体的・精神的な症状も細かに伝えている。 (主に計画作成担当者が行う)		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応には充分気を配っている。個人情報については、不特定多数の出入りがある場所には置かないよう、保管場所を決めている		プライバシーを損ねると思われる言葉掛けに対しては、ミーティングや個人的に適切でないことを伝えている
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の献立、どこに行きたいか、何を食べたいか等、本人の希望が出せる環境を作っている		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝礼で、その日の予定や、どのように過ごしたいかも伺うこともある		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・移動美容を利用している ・入居時には理容・美容も自由であると説明している 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備から後片付けまで一緒に行っている ・買出しにも付き合ってください		決められた時間ではなく、自由に食事ができる支援が出来るといいなと思う
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お風呂上りにビールを飲む利用者、場所を決めてタバコもたしなんで頂き外食やバイキングでも飲酒を楽しむ機会を作っている		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・入居前には紙パンツだった方でも、布パンツにパットなどトイレで排泄して頂くよう支援している ・排泄パターンも把握できるよう必要に応じてチェックしている		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日全員が入浴したいと言われる日もある。できるだけ希望に添えるよう努力している		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・できるだけ自由に休んで頂けるよう支援している ・日中のレクリエーションも無理強いすることのないように配慮している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の楽しみを把握して炊事が得意な方、裁縫・畑・歌・掃除など、生き生き生活できるよう支援している		同じ楽しみを奪い合わないよう配慮していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施できていない		個別に能力を見極め、出来る方への支援に努めたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑が好きな人は畑作業、お参りが好きな人は神社へ散歩、コーヒー好きな方は喫茶店へと出掛けている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・行ってみたいとは何処か？など、常々お話しを伺っている ・季節ごとの行事も作っている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にできるよう支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室で家族と食事することもある		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、身体的・精神的ダメージが大きいことを話し、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、正しく理解しているとは言いきれない		ミーティングを利用し理解を促していく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間寝る時意外は玄関等鍵をかけず開放的	夜勤者が一人になる時の対応が問題点ではある
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪ねる際には声掛けノック等に配慮している	
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・物品を保管させて頂く時は、本人に了解を得ている ・調理の時は見守りを怠らない	
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災には避難訓練を、誤薬には声掛け・一覧表確認、転倒に関してはヒヤリハットなどで取り組んでいる	
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	責任者への連絡・救急車への対応・報連相の徹底に努めている	
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行い、1階とは違う階段での避難というリスクに対応する為、月1回階段を降りる訓練も実施している	地域の協力を得られるよう、運営推進会議で発信し関係作りに努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時又は日々の生活を通じて起こりうるリスクについて家族へ随時伝えている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回の健康チェックを行い、異常の早期発見に心掛けている。状況によっては家族への連絡も行う		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用薬ファイルを作成し、服薬の際はスタッフ声掛け見守り確認している		薬副作用等にかんしてはスタッフの認識が浅いため、ミーティングを利用し勉強会を行っていきたい
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・朝食前のコップ1杯の水や日中の水分補給 ・体操や散歩、下肢運動を行っている		全スタッフにはまだまだ統一されていないので今後も取り組んでいきたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前・朝の口腔ケア義歯洗浄は行っている		毎食後の歯磨きに取り組んでいきたい
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一週間に1回体重測定をし、体重の増減を確認している ・特に夏場は水分記録表をつけている ・食事摂取量の記入をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・入所前に健康診断にて感染症チェックしている ・インフルエンザは入居者スタッフ共予防接種を受けている		施設内に入る時は、手洗い・うがい・消毒の徹底を声掛けていく
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板の消毒、日光消毒 ・生物は火を通し作り置きはしない ・食材は購入したらすぐに冷蔵庫へ収める		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・日中は玄関を開放している ・段差に手すりをつけたり、下駄箱前に椅子を置いたりし安全に配慮している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保てるようまめに清掃している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・所々にソファを置いている ・花など飾っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの利用者さんの好みの使い方がさ れている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・天気の良い日は居室の換気のため網戸にしてい る ・トイレは換気扇をまわしている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりの設置、車椅子の通れる空間の確保をして いる		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人一人が得意なことが出来る環境作りや安心で きるものを提供し、混乱や失敗を最小限にする努 力はしている。失敗に対してはさり気ないフォ ローに心掛けている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・玄関先には花のプランター等を置いたり、魚を 飼ったり椅子を置いたりしている ・ベランダに鉢物を置いている利用者も居る		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人の思いやペースを大切にしたら暮らしができる様、利用者に寄り添い生活を一緒に作り上げている
 玄関は必要異常に施錠せず、開放的な環境づくりに努めている
 外出支援を大切と考え、喫茶店・買い物など積極的に出かけしている
 同じ屋根の下に住むもの同士の交流も大切と考え、月に1回寄合いを行っている